

# 衣浦港海底トンネル 工事着工

港湾整備5カ年計画（昭和43年～同47年度）のうち、昭和44年度から衣浦港海底トンネル建設工事が着手されることになった。本工事は、港内のほぼ中央部に位置する東西両埠頭の水面下400mを連絡させるもので、港湾機能を充実させるとともに、あわせて周辺地域の輸送力の増強を計ることを目的として計画されたものである。本工事に要する総工費は約45億円で、昭和44年度は1億円の事業費をもって東埠頭側から着手される。本工事の概要はつぎの通りである。

所在地：愛知県半田市港町 4-1

工 法：沈 埋 式

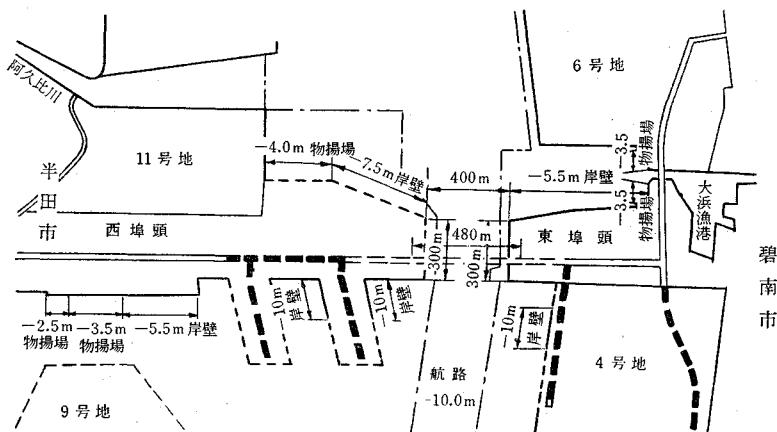
対象船舶: 25 000 重量 t

水路幅 400 m

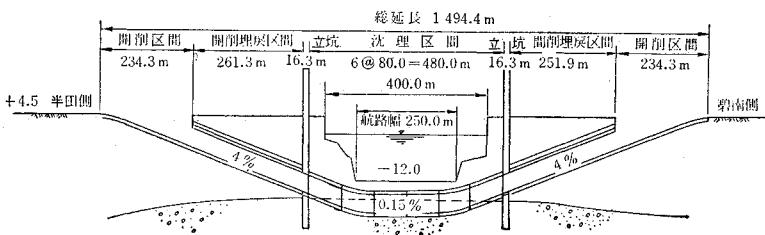
航路水深 -12 m

航路幅(中央部) 250 m

### 図-1 中央埠頭平面図



## 図-2 縱断面図



勾配：4%

延長：1494.4 m

立坑 32.6 m (2@16.3 m)

沈埋管 480 m (6@80 m)

開削埋戻 513.3 m

開 削 468.5 m

トンネル断面構成：車道、人道、換気用ダクト、ケーブル用ダクト

車道：幅員 7.0 m，側帶 0.25 m，路肩 0.25 m，高さ（建築限界）4.5 m

人道:幅員 2.5 m, 高さ 2.5 m

## 札幌市の地域暖房工事開始

北海道熱供給公社の手でわが国初の本格的地域暖房施設の建設が開始されることとなった。本工事は札幌市が昭和47年に開催される札幌冬季オリンピックまでに、札幌の冬のスマッグを取り除くため計画されたものであり、札幌市都心部地域暖房施設建設設計画の第1期工事として着工されるものである。本工事では、札幌市のビル

中心街の約  $1.5 \text{ km}^2$  を 1 カ所のボイラープラントからパイplineにて熱水を供給することにより、街ぐるみの暖房をするものであり、完成時には現在当該ビル街にある 300 本近い煙突が不要となる。また、大気汚染を防止するため、ボイラープラントの煙突は高さ 70 m とし、性能の良い集じん装置が付設される。

各ビルに供給された熱水はおののおのの使用目的により、温風、蒸気、温水暖房、給湯等に利用されるとともに、冷房にも利用できるとされている。本工事に使用されるパイプラインは、ハイドロサーム方式が採用される。本計画の概要はつぎの通りである。

建設工事期間：昭和43年から52年までの10カ年間とし、これを第1期から第4期までの期間にわけて

計画する。

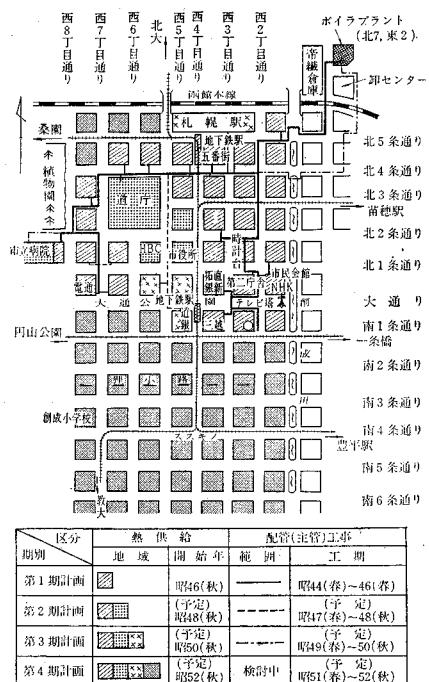
### 各期別規模別內訛：

区分	期別	第1期	第2期	第3期	第4期	計
ボイラー容量 (Gcal/H)	25×2	40×1	40×1	40×1		170
数量	2基	1基	1基	1基		5基
ボイラー容量が対応できる熱負荷 (Gcal/H)	56	45	45	45		191
年次割 (昭和/年)	43~45	46~47	48~49	50~52		

第1期工事建設費：約 24 億円

期別熱供給地域と配管工事範囲：図-1 のとおり。

図-1 期別熱供給地域と配管工事範囲  
(44.3.10 現在)



※配管ルートには往き、還りの管が2本並列に埋設される。

配管ルートの太線は主管、細線はブランチ管

# コンクリート標準示方書

昭和 42 年版

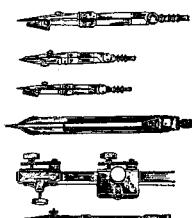
B 6・438ページ 1000円  
会員特価 800円 元100円

学校教材として

最適の指導基準

昭和 28 年制本

以来の本改訂版



特上製豪華本

A4 170ページ

色刷4ページ

## 折込付図 20 枚

定価 1300 円

会員 1100 円

(元 130円)

# 土木学会土木製図基準改訂委員会編 土木製図基準

自補・1	製図に関係のある規格
2	参考文献ほか
第1編	総則 第2編 鋼構造物 第3編 コンクリート構造物
第4編	測量その他 各編条文と解説つき 付録・製図のかき方
第1章	製図室および製図用の器具と材料 第2章 基本製図
第3章	簡単な図学 第4章 投影法 第5章 図面の計画と利用
第6章	都市・地域計画の製図

土木学会